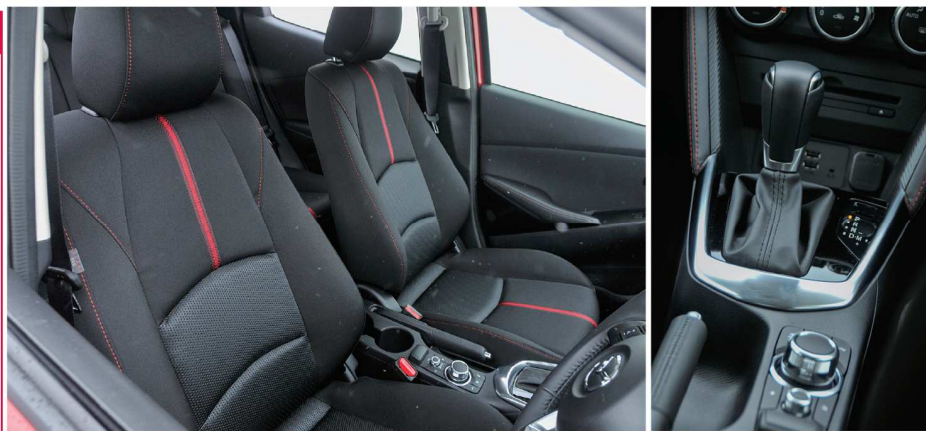




主要諸元：(デミオXD Touring 4WD)

- 全長×全幅×全高／4,060×1,695×1,525mm
- ホイールベース／2,570mm
- トレッド／前：1,495mm 後：1,480mm
- 車両重量／1,220kg
- 最小回転半径／4.9m
- エンジン／S5-DPTR (1,498cc 直列4気筒DOHC 16バルブ 直噴ターボ)
- 最高出力 (エンジン)／105ps／4,000rpm
- 最大トルク (エンジン)／25.5kgm／1,500～2,500rpm
- JC0.8モード燃費／23.0km／ℓ
- ミッション／6AT
- ブレーキ／前：ベンチレーテッドディスク 後：リーディングトレーリング
- タイヤサイズ／185/60R16
- 駆動方式／4WD
- 乗車定員／5名
- 車両本体価格(札幌地区)／2,138,400円(消費税込)



1,500ccのクリーンディーゼルターボ+4WD。ガソリン車もラインアップされているが、やはり話題性ではクリーンディーゼルである。インプレッションに先立って記しておきたいのは、先ずガソリンエンジンと軽油(ディーゼルエンジン)は全くの別物であることを認識する必要があるということだ。「エンジン音が大きい」とか「振動が大きい」とか、とかくネガティブなことをガソリン対比で言う人がいるが、ガソリンも軽油もメリット／デメリットがあり、特性が全く異なるもの。各々の特性を理解した上でいずれを選ぶかは個々のオーナーが判断すれば良いのである。

燃費とトルクの面ではディーゼルが優れており、HV車全盛の日本に比べ、ヨーロッパでは昔からディーゼル比率が高い。ただしデメリットもあり、NOx(窒素酸化物)やPM(ススなどの粒子状物質)といった大気汚染物質の排出量が多く、排出ガスを浄化して環境性能を向上させるには、特殊な触媒や尿素SCRなどによる大掛かりな排ガス処理装置が必要だった。かつて大型車がガラガラという騒音と黒煙を撒き散らして走っていた姿は、ディーゼルに対する嫌悪感を強く植えつけたが、これらを技術的に払拭し、日常的な使用に対応できるよう製品化したのがクリーンディーゼルである。そしてHVや軽と並び、エコカーの新たな選択肢としてクリーンディーゼルを押し上げたのがマツダである。

■豊富なバリエーション構成

さてデミオだが、スリーサイズは全長

スカイアクティブテクノロジー満載 次代を拓くクリーンディーゼルコンパクト



MAZDA DEMIO XD Touring 4WD

■テキスト＝横山 聡史 (Lucky Wagon) ■Photo＝川村 勲 (川村写真事務所) ■取材協力＝北海道マツダ販売 麻生店 Tel(011)726-5551

プロフィール

■走り・エコ性能・デザインが凝縮されたコンパクトカー

経済性と走る歓びを両立させたクリーンディーゼルエンジンを含む新世代技術「スカイアクティブ・テクノロジー」、魂動「Soul of Motion」に基づいた魅力的なデザインを盛り込んで、マツダはCX-5/アテンザ/アクセラと、順調に新型車を発表してきた。デミオはその波に乗り、昨年9月に販売が開始され、日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞という華々しいスタートを切った。そして昨年末に4WDが追加されたことで、全グレードが揃った。

先代はキューブでスタイリッシュなデザインが息の長い人気を誇っていた。こういう人気モデルの後継車開発には、様々なプレッシャーがあったと推測できるが、デザインチームである「魂動」Soul of Motionをコンパクトカーであるデミオにうまく着地させ、スポーティで躍動的なパッケージに仕上げたのはさすがと言えない。特にソウルレッドプレミアムメタリックというボディカラーは、小粋で、ちょっと悪戯っ子のようなデミオに深みを与えている。

■クリーンディーゼルはエコカーの新たな選択肢

試乗車はXD Touringで、

4,060×全幅1,695×全高1,525mm。全長と全高が僅かに拡大されたが、ヒップがきゅっと引き締まったスポーティなイメージは継承している。マツダのデザインチームに則って目つきは鋭くなり、XD(クロスディー/クリーンディーゼル搭載車)ではラジエターダクトに赤い塗装が施される。'80年代にゴルフGTiなどヨーロッパのホットハッチがとり入れていた手法だが、まったく古さを感じさせない。そもそのデザインがアグレッシブなので、逆に目新しく見える。

ラインアップは1,300ccガソリンと1,500ccディーゼルに分かれ、各々にFFと4WDが設定されている。またクロスレザシートをはじめとする高級装備が備わるL Packageも各々に設定されるほか、ガソリン車では5MT、ディーゼルでは6MTを選ぶこともできる。ちなみに現状ではほとんどのオーナーが6速ATをチョイスされているようだ。またヘッドライトはXD TouringとL PackageにLEDが採用されている。スモールをオンにすると昨今人気の高いイカリリング形状で、先進性もアピールしている。

■シンプルながら新機能も盛り込んだインテリア

インテリアはシンプルでスポーティ。必要十分な機能コントロールが備わっている。シートは小振りながらホールド感があり、安定した姿勢で長時間座ることができそうだ。一方後部座席は着座位置が高く、身長170cmのリポーターが座ると頭上空間は

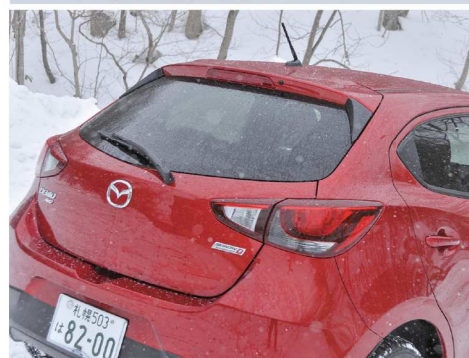


ディーラーメッセージ

北海道マツダ販売 麻生店
販売課係長

平林 雅宏さん

マツダのデザインコンセプト「魂動～SOUL of MOTION」を表現したエクステリア、経済性が高い一方、走る楽しみも持ち合わせるクリーンディーゼルエンジン、そして人馬一体の走り。デミオの魅力は、それらが凝縮された新世代コンパクトであるということです。マツダのクリーンディーゼルをまだ体験されていない方、クリーンディーゼル+4WDを待っていたという方、是非ショールームへ足をお運び下さい。冬道でデミオの高い完成度を実感していただけます。



■その気になればスポーツ ドライビングも楽しめる

インプレッション

CX-5/アテンザ/アクセラのXD
(2,200ccディーゼルトーボ)では強力なトルクを味わえるが、デミオはそこまでダイナミックではない。しかし最大トルクはなんと25.5kgm、それも1,500rpm

で、前方視界がとても良いからだろう。目新しいところではXD TouringとL Packageに設定されたアクティブ・ドライビング・ディスプレイと、「マツダコネクト」を容易に操作できるコマンド・コントロールが挙げられる。アクティブ・ドライビング・ディスプレイはアクセラで初採用されたもので、エンジンを始動するとドライバー正面、インパネの奥に立ち上がる表示板である。スピードやナビゲーションルートなどを表示し、運転中の視線移動を最小限に抑えてくれる。コマンド・コントロールはシフトレバー後方にあり、慣れてくれば直視しなくても操作できるので、こちらも安全運転に貢献してくれそうだ。なお「マツダコネクト」とはナビゲーション、オーディオ、エコ情報のほか、Bluetooth対応のスマートフォンと接続することでインターネットラジオの視聴やハンズフリー通話を可能にする機能の総称。ソフトウェアのバージョンアップに対応しており、今後様々な機能を楽しめそうだ。

拳一個ほど。にも関わらず圧迫感がないのは、前方視界がとても良いからだろう。目新しいところではXD TouringとL Packageに設定されたアクティブ・ドライビング・ディスプレイと、「マツダコネクト」を容易に操作できるコマンド・コントロールが挙げられる。アクティブ・ドライビング・ディスプレイはアクセラで初採用されたもので、エンジンを始動するとドライバー正面、インパネの奥に立ち上がる表示板である。スピードやナビゲーションルートなどを表示し、運転中の視線移動を最小限に抑えてくれる。

2,500rpmで発生させる。兄貴たちは2,500rpmあたりからモリモリとトルクが湧いてくるのに比べ、デミオのトルクは極めてナチュラルな出方をする。一般的にディーゼルエンジンのトルクバンドは狭いのだが、面白いことにマツダのクリーンディーゼルエンジンは回りがたがる。今回の試乗車はまだ走行50kmにも満たない状態だったので、過度に回すことはしなかったが、CX-5やアテンザのエンジンから察して、活発に違いない。

足回りはコツコツとした突き上げ感はあるものの、全体としてはしなやかな味付け。取材日は前日からの大雪でソロバン道路だったが、路面状況のインフォメーションをドライバーにしっかりと伝えてくれる印象だった。なお圧雪のワインディングでは弱アンダーステア傾向。車の挙動を掴み易く、簡単に破綻しない安心感がある。その一方、ステアリングはクイックで、タコメーターの針もキビキビ動くあたりが「人馬一体」を掲げているマツダらしいところ。

総合すると、魅力的なデザインを身にまとい、トルクフルでエコ性能も高いディーゼルエンジンで、その気になればスポーツドライビングも楽しめるコンパクトカーという位置づけになる。ちなみにワインディングを何度も登り下りしたり、アイドリング状態が長かったり、ヒーター・ワイパー・デフォッガーはフル稼働と、燃費面では極めて悪条件にも関わらず、取材を通しての燃費が12.2km/Lだったことは明記しておこう。一昔前であれば、冬場に限らず、取材時のトータル燃費が5kmを切る例はザラにあった。軽油価格を考慮すると、エコ性能だけを重視しても充分魅力的な一台と言える。